

平成31年度 東京都立八潮高等学校全日制課程 学校経営計画
—進路開発を意欲的に進められる生徒の育成を目指して—

校長 鶴田 秀樹

0 教育目標

- 自主性ある個性豊かな人間になろう。
- 礼儀を重んじ、公共のものを大切に作る人間になろう。
- 知性を磨き、深く考える人間になろう。
- 心身を鍛え、強く明るい人間になろう。
- 責任を重んじ、信頼される人間になろう。

1 目指す学校

新たな世紀がスタートした。昨年度、創立100周年を過ぎ、大きな節目迎えた本校は、普通科高校としての使命を果たしつつ、品川の地で一世紀にわたり有為な人材を輩出してきたが、近年は解決すべき多くの課題も存在する。これら課題の解決に向けて、昨年度の学校経営計画においては「目指す学校」として、次の3点が掲げられた。

〈平成30年度学校経営計画 「1 目指す学校像」〉

「品格と学びの八潮」を基礎に、

- 1 生徒の進路希望を100%実現する学校
- 2 社会人としてのマナーとルールを身に付けられる学校
- 3 地域社会になくってはならない学校

これら3つの内容は、本校が解決すべき喫緊の課題について触れたものである。そこで、これまでの成果を踏まえ、さらに生徒の確かな学力の定着や学習の習慣化、明確な進路希望の具現化とその実現、生活規律の醸成など、一つ一つの課題を着実に解決し、新しい一世紀を力強く踏み出していきたい。

一方、普通科高校そのものに対する時代の要請も変化を見せつつある。今年度に入り、中央教育審議会では、普通科高校の特色化の必要性を明確に打ち出してきた。従前のおおりに、教科を中心とする普通科教育を行っているだけでは、立ち行かない時代が、近い将来到来することが予想される。専門高校のような、職業教育を前提としない普通科にあっては、その特色の具体像は、生き方・在り方を模索し、社会との関わりを感得させる教育、つまりキャリア教育にあると考える。

新たな世紀に踏み出した八潮は、これまで培った成果の上に、生徒の学習習慣や生活習慣の確立及び学力の向上を主軸とし、それを支えるキャリア教育を具体的に推進していきたい。そこで、以下の5点を「目指す学校」として新たに掲げたい。

- (1) 自己の幸福を願い、自己と社会との関わりを模索し、幸福な社会の実現を願う生徒を育成する学校
- (2) 人生を力強く切り拓き、自己実現を意欲的に図ろうとする意志を持つ生徒を育てる学校
- (3) 望ましい規範意識を持つ生徒を育成する学校
- (4) 総ての教職員が力を合わせて、生徒の育成に邁進する学校
- (5) 地域に愛され地域社会と共に歩む学校

2 中期的目標と方策

「目指す学校」を実現化するために、中期的な目標とその実現に向けた方策を次に示す。

- (1) 生き方・在り方を自ら探求する態度を育てるキャリア教育の推進を行う。(進路指導)
狭義の意味の進路指導に留まらず、生涯を視野に置き、社会と自己の幸福を考える生徒の育成を目指す。そのために、3か年にわたるキャリア教育の見直しを行う。
- (2) 学習習慣の定着を図るとともに、学習環境の改善に努める。(学習指導)
- (3) 基礎・基本の学力の定着を図る授業改善を実践する。(学習指導)
- (4) 基礎学力の向上を図る。(学習指導)
生徒の学力を保障し、各自が目指す進路を実現させるために、不断の授業改善に取り組む。そのために、教科主任会議をより活性化し、基礎・基本となる内容を具体化させ、教職員の共通理解に基づく教科指導を実践する。
- (5) 基本的生活習慣の確立を重んじ、自律性を培う。(生活指導)
日常の遅刻指導や服装指導を通年にわたり取り組み、基本的生活習慣を醸成する。また、ホームルーム担任を中心とするカウンセリングマインドを重んじ、個別指導の機会を可能な限り確保する。
- (6) 部活動の奨励(生活指導)
部活動を積極的に奨励し、生徒の人格陶冶に資する。単に、勝ち負けに拘泥することなく、部活動を継続してやり遂げることの達成感を味合わせ、部活動内で育まれる人間関係の結び方を、生き方の指針となるように指導を行う。
- (7) 生徒会活動の奨励及び生徒が主体的に取り組む学校行事を奨励(生活指導)
- (8) 進路希望の実現に向けた学習指導と進路指導の充実(学習指導・進路指導)
入学時から卒業時までの計画的な進路指導を体系的に施していくとともに、生徒の進路希望を早めに具体化させ、その実現を目指した学習指導に取り組む。そのために、関係する分掌である進路指導部及び各学年、各教科が一層連携を図り、適切な業務分担による校務運営を行う。

(9) 進路指導の充実（進路指導）

目指す進路目標を確実に設定し、その実現に向けた計画的進路指導を充実させる。

(10) 生徒の健康支援（保健指導・生活指導）

全ての生活を支える基本である健康に対する生徒の意識を一層高めるとともに、心身の発達に応じて、個に応じた指導を行う。そのために、スクールカウンセラーや精神科専門医等の外部人材の力を活用し、その助言等を全教職員が共有して、生徒の指導に役立てるように取り組む。

(11) 専門的な職業人としての全教職員の取組（学校経営）

全教職員が、専門的職業人であるという認識に立ち、さらに向上していこうとする機運をつくるとともに、必要かつ効果的な校内研修を定期的に行い、実務への精通と理念の深化を目指す。

(12) 優先順位を付けたメリハリのある予算執行（学校経営）

自立経営予算をはじめとする、本校の総ての予算を学校経営計画実現に向け、効果的に執行する。例年の執行状況実績にとらわれることなく、学校経営計画のうちとりわけ重要と考えられる、生徒の学習環境の充実・整備や学力向上への取組などに予算投下を行い、学校の活性化を目指す。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 進路指導の充実

新学習指導要領に基づく、新たな教育課程の策定が間近に迫っている。このことを契機として、本校は進路指導を充実させ、生徒の望ましいキャリアを形成できる学校に舵を切りたい。そのために、次の取組に着手する。

ア 生き方・在り方を深く模索し、幸福な社会と自己実現を図ることができる3年間にわたるキャリア教育の進め方を検討する。

イ 新教育課程のグランドデザインを年度内に決定する。そのために、校内組織を改変または新たに設け、1学期から検討を行う。

(2) 上級学校への進路を的確に実現できる学校

大学進学希望者の増加に応えるために、所謂出口指導の充実を図る。また、専門学校進学希望者に対する適切な指導助言を継続する。

ア アドバンスシステムのさらなる充実を検討し、勉強合宿の学習内容の検討、土曜講習の充実、日常の学習内容の質と量を保障する。

イ 学力の比較的高い生徒をさらに伸ばすための、組織的な取組を行う。そのために、模擬試験等の客観的なデータに基づく、定期的な面接指導を密に採り入れ、進路指導部と学年担任が意図的組織的に連携を強め、指導に当たる。

ウ 大学進学方法について、一般入試により進学を目指すのか、あるいは指定校推薦や公募制推薦により進学を目指すのかを、3年生の早期に決定し、それぞれ相応しい学習指導を行う。

エ 専門学校に関する有益かつ適切な情報を生徒に示し、望ましい進学目標や意識を育成する。

(3) 学習の習慣化と基礎・基本の定着を保障する学校

学習習慣が十分に身に付いていない生徒が多く見られること、また、学習方法が十分に理解できていない生徒に対しての指導を一層充実させる。

ア 日常の学習課題の徹底を目指し、生徒に課す学習課題の内容と量の是非を、定期的に見直しつつ、効果的な課題提出を求めていく。

イ スタディサプリを効果的に活用し、スタディサプリの到達度テストの範囲や結果に基づき、効果的に個別指導を行い、学習意欲を喚起する。

ウ 自習室の効果的な活用を継続するとともに、外部講師等を効果的に採り入れ、学習環境を整備する。

エ 学力向上推進校の指定を活用し、基礎・基本の充実を図る。

(4) 部活動の活性化

部活動への参加を推奨し、成果を学校全体及び保護者や地域とともに祝福する。また、部活動を継続して意欲的に取り組む生徒の育成を図る。

(5) 基本的な生活習慣の定着

学校への帰属意識を養い、望ましい自己の確立を期して、基本的な生活習慣を徹底させる。

ア 登校時の校門指導を通年通じて実施する。

イ 頭髪・服装指導の継続実施。

ウ 効果的な遅刻防止指導の検討と実施。

エ スクールカウンセラー、ユース・ソーシャルワーカー、専門医の派遣事業等を効果的に活用。

(6) 効果的な募集広報活動の実施

低迷を続けている状況から脱し、気力漲る学校づくりを目指し、効果的な募集広報活動を展開する。

ア 『学校案内』の内容の刷新。

イ 学校ホームページの全面改訂。

ウ ツイッターを活用した広報の開発。

エ 一人の教員が、特定の担当中学校を受け持つ、中学校担当制度の導入。

オ 広報活動の重点地域の検討。

カ 学校説明会の増回開催。

(7) 国際理解教育の継続

グローバルな視野を育成するための国際理解教育を今後も継続する。

ア オリンピック・パラリンピック教育の一環として、海外修学旅行を継続して実施する。

イ 英語教育を推進し、生徒に国際的視野を身に付けさせる。

(8) 施設・設備の整備

老朽化が著しい本校校舎等にあつて、「危ない」「汚い」「古い」の順に整備対象箇所等を見出し、可能な限り整備に努める。

(9) 学校経営

ア ライフ・ワークバランスの浸透を図り、全職員の心身ともに健やかな就労環境を維持するための工夫に取り組む。

(ア) 会議の短縮化。

(イ) 採点や成績処理の機械化の検討。

(ウ) 各種統計資料の処理等の機械化導入。

(エ) 長時間労働の防止。

イ 若手職員の育成

若手職員が多数在職している状況に鑑み、授業力向上及び校務分掌の実力がさらに向上することができるよう、校内研修を定期的実施する。また、事務職員の力量向上を期して、行政研修を定期的実施する。

ウ 効果的な学校経営に資する予算の投下

学校経営計画の実現に向けた、自律経営推進予算を効果的に投下する。そのために、予算計画を抜本的に見直し、メリハリある予算策定を行う。

4 重点目標と方策（数値目標）

○四年制大学進学率40%以上

○アドバンストシステムの継続率85%以上

○1日1時間以上の学習習慣化率40%以上

○中途退学者数10名以内

○部活動定着率90%以上

○年間延べ遅刻者数7,000名以内

○学校説明会・見学会等の来校者数3,500名以上

○入学者選抜倍率 学力に基づく選抜1.00倍以上